

ご葬儀について



五劫山 法 蔵 院

横須賀市津久井 1-12-5

TEL 046-848-0154

FAX 046-848-4415

葬儀は分からないことがあって当然です。ご不明な点をご遠慮なくお尋ねください。
故人様を偲び感謝の気持ちを伝える。
そしてご遺族様にご納得できるご葬儀をお勤めするお手伝いをさせていただきます。

葬儀にかかる事項

家

通夜 日程 _____ 月 _____ 日 _____ 時より

葬儀 日程 _____ 月 _____ 日 _____ 時より

葬儀の流れ

通夜 → 葬儀/初七日 → 火葬 → 四十九日/納骨 → 百か日 →
新盆 → 施餓鬼 → 十夜法要 → 一周忌 → 三回忌

通夜 葬儀の開始時刻は、こだわる必要はありません。現在では 15 時～17 時からの通夜もあります。

葬儀 近年では葬儀後出棺、火葬がほとんどです。火葬場の釜の時間を確認してからの葬儀開式時刻を決めます。以前は「骨葬」と言い朝出棺、火葬済ませお骨になってから葬儀を勤めていました。

仮通夜 昔は 友引等 あらゆる事情により亡くなった翌日に通夜を営まれない場合、通夜の前日に仮通夜を自宅で勤めていました。現在は、通夜を 2 回勤めることになるなどの理由から 仮通夜はここ数年勤めていません。

出棺 「悲しみを増す棺の釘打ち」は行われないう葬儀が多くなってきました。時間が許すなら「区切り」として「くぎ打ち」を執り行いましょう。その場合「釘打ち」の意味を住職よりお伝えします。
棺はなるべく遠縁の方が加持します。土葬で埋葬していた時代は親族は位牌、供え膳、水等を持ち棺の前を歩き「組合/くみあい」と呼ばれる隣組が棺を加持、埋葬を担いました。家の庭で三周回り葬列は回り道してお寺の境内に着くと井戸の周りを三周して墓地に向かい埋葬します。
いずれも死者が家に戻ってこないように周り道、3 回まわり行っていました。「釘打ち」にも同様の意味があります。

通夜葬儀の費用について

本尊前、お布施、初七日、お膳料、お車代 供物 餅使用料 等

初七日 初七日は、葬儀の続きではありません。四十九日までの七日×七回の最初の法要です。葬儀布施とは別に『お布施』をご準備ください。

お車代 僧侶が斎場に伺った場合、火葬場へ同行した場合必要です。法蔵院で通夜の際は必要ありません。

お膳料 「お持たせお膳」はせっかくいただいても腐敗等の心配があります。通夜、葬儀後仕事の都合により寺に戻らないこともあります。

供物 通夜葬儀の際、祭壇に二段重ねの餅を備えます。上の餅はお寺に納め、下の餅

を親族が出棺後火葬場にいるある間に斎場に残る「くみあい」の方が切り分け、火葬場へ行った方が斎場で供養膳を振舞った後、帰りに「お供物/おくもつ」として他にあげて頂いた果物、菓子等と一緒に渡します。餅使用料 10,000 円

つつみ方

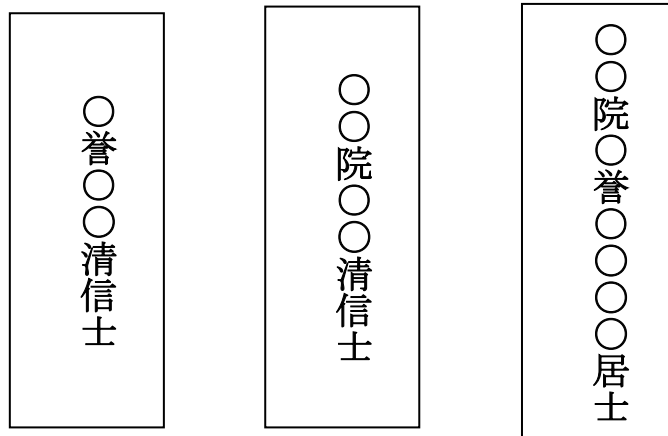
水引はなくても構いませんが、つけるなら銀、或いは白黒の水引をつけます。表書きは『お布施』『上』『志』等 書きます。

渡すタイミング

いつでも構いません。昔は、施主と親族の長老が葬儀後、日を改めて菓子折り等を持参しお寺へ出向いて渡していましたが、現在では通夜の前後が多いです。葬儀直後は、出棺準備のため時間が取れません。

お戒名について

女性は 大姉、信女



四十九日までの準備

塔婆申込 : 10日～2週間前までをお願いします。追加可能。

位牌の手配 : 完成まで約2週間必要です

石材店へ依頼 : 墓誌へ戒名彫、納骨の依頼は施主様が石材店へ手配してください

ご家庭での供養 : 毎朝コップまたは湯飲みに水を新仏の祭壇にあげ夕方水をこぼします。

納骨した場合、四十九日まで墓前で毎日上記のように水をあげます。

先祖の仏壇 : 仏壇を閉じたり白紙を貼る必要はありません。浄土宗では先祖、新仏ともに同じようにお給仕して供養してください。先祖の墓参も問題ありません。

仏壇のないご家庭 : 仏壇、阿弥陀様、善導大師、法然上人 像或いは掛け軸をご準備下さい。

お墓がないご家庭 : 四十九日までの納骨が通常ですが、お墓は末永く供養します。(マイホームよりも長い) 納骨を済ませなければいけないと急いだり妥協するより、故人様の意志、そしてご遺族様が納得できるお墓の建立をお勧めします。四十九日に間に合わなければ「百か日法要」納骨でも構いません。

四十九日後は寺で貯骨ご供養します。

ご供養とは

供養は人偏(にんべん)に共と書き、人として心を供えていくという意味です。ご先祖様を供養することで自分の心を養っていくわけです。ご供養は故人様のためにするものですが、それだけでなくご自身の心を耕し養い豊かにしていきます。

私も平成24年に先代を送り葬儀、その時は大変でしたが皆様にお力添えいただき乗り越え、より成長できたと感じています。先代が命を懸けて人としての道を示していただき感謝しています。

「供養」は、真心を供えることで自信の養いに繋がります。